

第二復員省公報 第四六號

昭和二十一年三月一日(金)
第二復員大臣官房

○令 達

内令第三二號

元驅逐艦 冬 月

右特別輸送艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム

元第九十六號海防艦

横須賀地方復員局所管
特別輸送艦 酒 旬

右特別輸送艦ヲ解ク

昭和二十一年二月二十五日

第二復員大臣

官房人第一七號

特別輸送艦船乗員ニシテ本年内令第三二號施行ニ依リ職名ニ異動ヲ生ズル者ハ各其ノ配置ニ應ジ別ニ附令ヲ用ヒズシテ新定員表所定ノ職名ニ變更セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十一年二月一日

第二復員大臣

(註) 昭和二十一年内令第三二號ハ當分ノ間特別輸送艦船ノ定員ヲ定メ試行ノ件ナリ

○通 牒

二復經理局第六號ノ十一

昭和二十一年二月二十三日

關係各廳長殿

在外財産等報告書ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 總務局長、經理局長

宛 各地方復員局長官

第一三一六四五番電

在外財産等報告書ニ關スル件照會

在外財産等報告書ニ關シテハ客年十一月第一二一八二二番電ニ依リ海軍關係ノ分ヲ取纏メ大藏省ヲ經テ聯合國側ニ提出濟ナルモ今般之ヲ提出洩ノ有無再調方照會アリタルニ付此ノ際未提出ノ分又ハ其ノ後判明セル分等ニシテ追加ヲ要スルモノヲ調査ノ上本月中ニ到達スル如ク經理局宛送付相成度尙報告事項ナキ場合ハ其ノ旨電報相成度

二復經理局主第七號ノ一五

昭和二十一年二月二十七日

第二復員省公報 第四六號 昭和二十一年三月一日

七三

2075

關係各廳長殿 第二復員省經理局長

第二復員省關係勤務員ノ給與等ニ關スル件通知
首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 經理局長

宛 部内一般

第一八一七四三番電

年末賞與及臨時賞與全額家族渡ノ件

現ニ俸給家族下渡中ノ者ニ對シテハ昭和二十年十一月三十日以
降ノ年末賞與及臨時賞與ハ本人ノ請求ヲ俟タズ全額家族渡ノコ
トニ取計ハレ度

發 經理局長

宛 各地方復員局經理部長

第一九一一一六番電

准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル文官俸給ノ取
扱ニ關スル件

陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラ
レタル場合支給スル俸給ハ本年二月分以降恩給額ヲ控除セザル
コトニ處理セラレ度

發 經理局長

宛 各地方復員局經理部長

第一九一一一五番電

臨時賞與ニ對スル分類所得稅等ノ取扱ニ關ス
ル件

一 本月一日附臨時賞與ノ額八〇〇圓ニ制限セラレタル者ニ對
スル分類所得稅ハ當該俸給月額ヲ以テ八〇〇圓ヲ除シテ得タ
ル割合(小數點二位以下切捨)ヲ當該分類所得稅月納稅額
ニ乘ジテ得タル額ヲ控除スルモノトス

二 臨時賞與ノ額回位未滿ハ之ヲ回位ニ滿タシムルモノトス

○雜 款

○移轉

山形地方復員人事部ハ二月十七日山形市六日町三一〇番地大日
本武德會山形縣支部ニ移轉セリ
(山形地方復員人事部)

○電話開設

二月十八日附左記電話當部専用トジテ敷設セリ

記

電話岐阜 四〇〇五番

(名古屋地方復員人事部岐阜支部)

○轉官

第二復員官兒玉繁雄ハ二月八日地方警視ニ轉官セリ

第二復員省公報號外

昭和二十一年三月一日(金)
第二復員大臣官房

○訓令

内閣訓令號外

各官廳

政府ハ當面ノ危機ヲ打開シテ新日本建設ノ基礎ヲ確立セシムガ爲、今般食糧及通貨ニ關スル施策ヲ中心トスル一聯ノ經濟危機緊急對策ヲ實施スルコトトシテ、終戰以來國內ニハ國民生活ヲ脅威スル各種ノ問題ガ累積シ、建設ノ意欲ハ混亂ト沈滞トノ中ニ埋没セラレタ感ガアル、今般ノ施策ハ之ヲ打開シテ、茲ニ新日本建設ノ基礎ヲ築カントスルモノデアアル。

畏クモ一天皇陛下ニ於カセラレテハ年頭ニ當リ詔書ヲ下シ給ヒ五箇條ノ御誓文ヲ引用セラレ、(朕ハ茲ニ誓ヲ新ニシテ國運ヲ開カント欲ス。須ラク此ノ御趣旨ニ則リ、舊來ノ陋習ヲ去リ、民意ヲ暢達シ、官民學ガテ平和主義ニ徹シ、教養豊カニ文化ヲ築キ、以テ民生ノ向上ヲ圖リ、新日本ヲ建設スヘシ)ト仰セラレ、又(朕ハ爾等國民ト共ニ在リ、常ニ利害ヲ同ジウシ休戚ヲ分クント欲ス。)ト仰セラレタ。

官吏タルモノハ常ニ此ノ詔書ノ 聖旨ヲ奉々服膺シ、何等カ支配的地位ニ在ルガ如キ言行ヲ慎シムト共ニ終始各自ノ品性ヲ堅持シ、國家運営ノ重要ナル一環トシテ其ノ任務ヲ遂行スルニ當ツテハ、常ニ積極的ニシテ且強烈ナル責任感ヲ以テシ、眞ニ公

第二復員省公報號外

僕トシテノ使命ニ徹セネバナラヌ。一切ノ國家活動ノ目的ハ單ニ法令ノ機械的運用ヲ圖ルニ在ラズ、終局ニ於テ國民ノ福祉ヲ圖ルニ在ルコトハ言フ迄モナイ。官吏ノ責任ノ本義モ亦實ニ此ニ在リ、此ノコトヲ常ニ念頭ニ置イテ各員ノ責任ヲ遂行シテラユル事項ニ付末端ニ至ル迄趣旨ノ徹底ヲ期スベキデアアル。今般ノ施策ヲ遂行スルニ當ツテハ、國民ノ中ニ相當ノ影響ヲ受ケル者ガアリ從ツテ又多少ノ摩擦ヲ生ズルコトモアラウガ、其レハ平和ニシテ安泰ナ新日本ヲ迎ヘル爲ニ已ムヲ得ザル犧牲デアアル。官吏ハ宜シク至誠ヲ以テ此ノ間ニ處シ、困難ノ中ニモ率先希望ヲ抱イテ建設ノ業務ニイソシミ、簡素ヲ生活ノ中ニ明ルイ人生ヲ盛ツタ健康ヲ清新ナ國土ノ建設ニ邁進セネバナラヌ。官吏ガ乏シイ給與ノ下ニ生活ノ困難ヲ忍ビツク努メテ來タコトハ本然ノ責務トハ言ヒ乍ラ眞ニ軋フベキ所デアリ、其ノ生活確保ニ付テハ近ク適當ノ措置ヲ講ズル所デアアル。今ヤ混亂ヲ收拾シ志ヲ新ニシテ新日本ノ黎明ヲ迎ヘントスルニ當リ、政府首腦部ヲ始メ、全官吏至誠以テ民生ノ安定ヲ實現シ、平和國家ノ一員トシテ世界ノ進運ニ貢獻スル日ノ、一日モ速カナランコトヲ期セネバナラヌ。全官吏各位ハ克ク紋上ノ趣旨ヲ體セラレ一段ノ努力ヲランコトヲ望ンデ巴マメ次第デアアル。

第二復員省公報號外

昭和二十一年二月十七日

内閣總理大臣 男爵 幣原喜重郎

2078

第二復員省公報 第四七號

昭和二十一年三月二日(土) 第二復員大臣官房

〇 通 牒

二復經理局主第二號ノハ

昭和二十一年二月二十八日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

特別輸送艦船等ノ經費掌理ニ關スル件通牒

今般官房第二七一六二番電ヲ以テ主計科准士官以上(同武官ヨリ任用セラレタル文官ヲ含ム)ノ配員ヲキ特別輸送艦船掃海艦艇ノ經費掌理者ノ範圍擴張相成候處右ハ特別輸送艦船ノ增加ニ鑑ミ近ク之等ノ經費掌理ノ爲所管地方復員局經理部及其ノ他所要ノ陸上各部ノ經理關係者ノ陣容強化セラルル見込ナルモ當該艦船ノ行動等ノ都合上之等各部ノ經費掌理者ヲシテ經費支拂ヲ掌理セシメ難キ爲業務遂行上支障アル場合ニ於テハ當該艦船ニ勤務ノ判任官以上(成ルベク高等官)ノ者ノ内適任者ヲシテ其ノ經費支拂ヲ掌理セシメントスル趣旨ニ出ツルモノニ付了知相成度

二復人事局第一八號ノ七ス二

昭和二十一年三月一日

第二復員省總務局長

第二復員省公報 第四七號 昭和二十一年三月二日

昭和二十一年三月二日(土)

第二復員省人事局長

各地方復員局總務部長
各上陸地連絡所長
輸送關係各艦(船)長

殿

在外部隊現狀調書等ニ關スル件申改正式件照會

二復人事局補第一八號ノ七照會首題ノ件申改正式件申改正式候

記

一「海軍々人軍屬消息調査」ノ項「處理要領」ノ欄ヲ左ノ通改

輸送艦(船)長(部外艦船ニ依リ歸還ノ場合ハ到達地ノ最寄上陸地連絡所長)乗艦(船)歸還者ニ就キ第二様式ニ依リ記註セシメ整理ノ上上陸地連絡所ヲ經由外地ニ殘留シアルモノニ就テハ在籍ノ區分ニ從ヒ人事局長又ハ人事部長ニ戰歿又ハ行方不明者ニ就テハ之ガ殘務整理ヲ行フ地方復員局殘務整理班ニ送付ノコト
(要スレバ部外者ニモ記註ヲ依頼スルコト)

二 第二様式中

「項目」ノ欄「戰歿又ハ行方不明」トアルヲ「外地殘留者及戰歿又ハ行方不明者」ニ改ム
備考ニ左ノ通追加ス
三 外地殘留者ノ消息調ハ留守家族ニ對スル消息通知ノ資

2079

料トスルモノニ付歸還者ノ記憶スル限り成ルベク多數ニ
就キ詳細(特ニ健康狀況、歸還見込期日等)ニ記載セシ
ムルコト
四 軍人ト軍屬ハ各別紙トスルコト

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

自今當分ノ開當艦宛ノ郵便物ハ左記ヘ送付相成度

記

長崎縣佐世保局氣付

特別輸送艦 國 後

(特別輸送艦 國 後)

第二復員省公報號外 (位勳)

昭和二十一年三月四日(月)
第二復員大臣官房

○叙位

○昭和二十年一月二十四日 海軍少尉 猪熊 哲二 叙正八位	○昭和二十年二月三日 海軍中尉 鈴木 勇 叙正八位	○昭和二十年二月二十五日 海軍中尉 門馬 秀夫 叙正八位	○昭和二十年二月二十五日 海軍少佐 永田 賤生 叙正七位	○昭和二十年二月二十五日 海軍中尉 小山 正雄 叙正七位	○昭和二十年三月一日 海軍少尉 須藤 龍弥 叙正七位	○昭和二十年三月一日 海軍大尉 新保始明夫 叙正七位	○昭和二十年三月八日 叙正七位	
○昭和二十年三月十一日 海軍少尉 浪越 皇國 叙正八位	○昭和二十年三月十一日 海軍中尉 安部 道忠 叙正七位	○昭和二十年三月十二日 海軍主計少尉 若井 達雄 叙正八位	○昭和二十年三月十五日 海軍少尉 齋藤七郎兵衛 叙正八位	○昭和二十年三月十五日 海軍大尉 石井 晃 叙正七位	○昭和二十年三月十八日 海軍中尉 飯田 健治 叙正七位	○昭和二十年三月十八日 海軍大尉 山下伊久雄 叙正七位	○昭和二十年三月二十日 海軍中尉 八田 徳夫 叙正七位	○昭和二十年三月二十四日 叙正七位
○昭和二十年三月二十八日 海軍中尉 清水 總平 叙正七位	○昭和二十年四月三日 海軍中尉 奥 芳郎 叙正七位	○昭和二十年四月九日 海軍大尉 奥田 義彦 叙正七位	○昭和二十年四月十一日 同 吉澤 義香 叙正七位	○昭和二十年四月十一日 同 稻垣 敏彦 叙正七位	○昭和二十年四月十一日 海軍大尉 渡邊 宏 叙正七位	○昭和二十年四月十六日 海軍少佐 浅川 正明 叙正七位	○昭和二十年四月十六日 海軍大尉 秋田 虎彦 叙正七位	○昭和二十年四月十六日 叙正七位

部
課長

第二復員省公報號外 (位勳)

<p>○昭和二十年四月十九日 海軍中尉 高橋 作衛 ○昭和二十年四月十九日 海軍大尉 波山 洋 ○昭和二十年四月十九日 海軍少尉 多田 武和 ○昭和二十年四月二十四日 海軍大尉 田中 洋一 ○昭和二十年四月二十五日 海軍中尉 村田 義雄 ○昭和二十年四月二十七日 海軍中尉 赤池 香 海軍少尉 佐々木修郎 ○昭和二十年五月一日 海軍中尉 堤 幸造 ○昭和二十年五月三日 海軍大尉 園家 純一</p>	<p>○昭和二十年五月四日 海軍少尉 牧野 信一 ○昭和二十年五月五日 海軍大尉 平原 覺一 ○昭和二十年五月七日 海軍大尉 秦 忠四郎 ○昭和二十年五月十三日 海軍少尉 品川 朝美 同 大野 銀榮 ○昭和二十年五月十五日 海軍機關兵曹長 長谷川正義 海軍上等兵曹 立川 篤吉 ○昭和二十年五月十七日 海軍少尉 鈴木 英男 ○昭和二十年五月十八日 海軍少佐 脇 義則 ○昭和二十年五月十八日 海軍大尉 宮本 武</p>	<p>○昭和二十年五月十九日 海軍大尉 山田 三郎 ○昭和二十年五月二十二日 海軍少尉 菊永 勇 ○昭和二十年五月三十日 海軍理事官 依田 孝 ○昭和二十年五月三十日 海軍大尉 妹尾 忠平 元海軍技師 伊藤 芳三 ○昭和二十年六月一日 海軍中將 金子 繁治 同 河野千 萬城 同 市岡 壽 同 安場 保雄 同 山口 信助 同 木村 進 同 小暮 軍治</p>
---	---	---

通各

海軍大佐 二見 仲一
 同 原田健四郎
 同 松木 泰
 同 牟山 菊雄
 同 森 浅三
 同 宮崎 幸武
 同 桐野 義隆
 同 石塚 正俊
 同 淺香 武治
 同 田邊 保里
 同 久安 房吉
 同 江本 一雄
 同 守弘 作郎
 同 石松 祐雄
 同 郡嶋 定雄
 同 吉川 唯喜
 同 本田甚次郎
 同 石原 繁
 同 古田 良夫
 同 菅原 正雄
 同 藤松 達次
 同 杉野 修一
 同 藤野 寛
 同 安川 正治
 同 貞方 静夫
 同 野口 照隆
 同 池田 福男
 同 森本 芳夫

海軍軍醫大佐
 同 松末 元完
 同 仙頭 榮
 同 山本 美徳
 同 藤田 友造
 同 澤 勇夫
 同 齊藤 泰藏
 同 松尾 義保
 同 大山豊次郎
 同 溝呂 定一
 同 前田 謙直
 同 片山 啓六
 同 海東 啓六
 同 寺西武千代
 同 渡邊敬之助
 同 在原 耕平
 同 河本 實
 同 加茂 衛一
 同 佐多 直孝
 同 森山 昌邦
 同 門倉 光平
 同 小山 猛男
 同 近藤 龍
 同 鈴木 儀長
 同 宮坂 義登
 同 三宅 正一
 同 小林 滿男
 同 小田 一昭

海軍藥劑大佐
 同 木庭 保喜
 同 新井 實
 同 伊藤 録雄
 同 森島 茂雄
 同 松見 武尙
 同 吉田 博
 同 内野 成道
 同 林 政人
 同 下山 政人
 同 大田川 肇
 同 高橋 謙
 同 垂水 茂
 同 岩崎 齋介
 同 永井 基治
 同 鴛田 權藏
 同 奥田 司
 同 岩崎 健彦
 同 山沖 芳市
 同 堀 直江
 同 龍寶 英夫
 同 石井秀次郎
 同 淺野 孝之
 同 川島 經裕
 同 清水 新一
 同 泰羅登善治
 同 初見 五郎
 同 青木 大吉
 同 宮本 政男

<p>通各 海軍大尉 佐々木藤兵衛 同 吉田長三郎 同 小路 金藏 同 北川 昌二 海軍主計大尉 三浦龍四郎</p> <p>通各 海軍中尉 的場源次郎 同 大石覺次郎 同 竹本鋼太郎</p> <p>通各 海軍機關兵曹長 有村 寛 海軍主計兵曹長 塩川 榮</p> <p>通各 海軍技術少尉 尾關 卓 海軍一等兵曹 小泉 五郎</p> <p>通各 海軍二等機關兵曹 山内 榮藏</p> <p>敍從八位 昭和二十年四月十日任官セル海軍少尉印南大造以下ニシテ相當位以上ノ位ヲ有セザル者ハ昭和二十年七月二日附相當位ニ敍セラレタリ</p> <p>○昭和二十年七月五日 海軍主計中尉 菅野 敏雄</p> <p>敍從七位</p>	<p>通各 海軍中將 岡 敬純</p> <p>通各 海軍少將 岩本 鼎 同 中邑 元司 同 石橋 正三</p> <p>通各 海軍少將 近藤藤次郎</p> <p>○昭和二十年七月二十日 海軍少佐 三成 恒</p> <p>○昭和二十年八月一日 海軍兵曹長 谷口 荒人 海軍法務兵曹長 中村太三郎 同 佐久間 茂 同 佐藤 豊司 同 三浦 孝夫 同 湯本 鷗弥 同 山崎 秋松 同 辻本 豊 同 徳本 寅吉 同 岸本万魚男 同 川口 逸二 同 前田 勝 同 黒木武良雄</p>	<p>通各 海軍中將 岡 敬純</p> <p>通各 海軍少將 岩本 鼎 同 中邑 元司 同 石橋 正三</p> <p>通各 海軍少將 近藤藤次郎</p> <p>○昭和二十年七月二十日 海軍少佐 三成 恒</p> <p>○昭和二十年八月一日 海軍兵曹長 谷口 荒人 海軍法務兵曹長 中村太三郎 同 佐久間 茂 同 佐藤 豊司 同 三浦 孝夫 同 湯本 鷗弥 同 山崎 秋松 同 辻本 豊 同 徳本 寅吉 同 岸本万魚男 同 川口 逸二 同 前田 勝 同 黒木武良雄</p>	<p>通各 海軍大尉 田島 之丞 同 川井 正作 同 丹治 金作 同 早田 勘一 同 佐々木 園</p> <p>通各 海軍主計大尉 佐々木 園</p> <p>左記任官セル者ニシテ相當位以上ノ位ヲ有セザル者ハ八月十五日附相當位ニ敍セラレタリ</p> <p>○昭和十九年十二月二十五日 任官ノ海軍少尉 藤本 仲哉 以下</p> <p>○昭和二十年八月十五日 海軍上等兵曹 江原 實 同 阿波 政次 同 林 盛光 同 佐伯 百助 同 近藤 源太 同 長尾 峯吉 同 木村 正三 同 堂上 惣市 同 古川 彌六 同 堀 與吉 同 合原 慎一 同 奥田 静人</p> <p>同 任官ノ海軍少尉 岡 源三郎 以下</p>
---	---	---	--

<p>任官ノ海軍少尉 丸山 昂以下</p> <p>○昭和二十年九月一日</p>									
<p>通各</p> <p>海軍中將 滋谷隆太郎</p> <p>同 藤田類太郎</p> <p>同 宇垣 完爾</p> <p>同 志摩 清英</p> <p>同 岸 福治</p>					<p>通各</p> <p>海軍少將 黒原 退藏</p> <p>同 村上 房三</p> <p>同 千田 貞敏</p> <p>同 水井 靜治</p> <p>同 秋山 勝三</p> <p>同 城島 高次</p> <p>同 森 徳治</p> <p>同 高間 完</p> <p>同 星野 應三</p> <p>同 美原 泰三</p> <p>同 野宮 三郎</p> <p>同 古宇田 武郎</p> <p>同 勝 野實</p> <p>同 原田 覺</p> <p>同 三木 森彦</p> <p>同 延谷 保司</p> <p>同 田村 劉吉</p> <p>同 加藤 尙雄</p> <p>同 大橋 竜男</p>				
<p>通各</p> <p>海軍主計少將 藤田 傳次</p> <p>同 内田市 太郎</p> <p>同 三坂 直彦</p> <p>同 来島 茂雄</p> <p>同 稻垣 義穂</p> <p>同 鈴木 豊次郎</p> <p>同 荒木 保</p> <p>同 峯松 寧夫</p> <p>同 宮本 八十三</p> <p>同 岡野 慶三郎</p> <p>同 溪口 蒙介</p> <p>同 古木 百藏</p> <p>同 成富 三平</p> <p>同 服部 賢</p>					<p>通各</p> <p>海軍主計大佐 杉浦 短郎</p> <p>同 山崎 政藏</p> <p>同 大本 季義</p> <p>同 梶原 君事</p> <p>同 上野 正實</p> <p>同 平島 唯次</p> <p>同 本吉 唯次</p> <p>同 前田 仁三郎</p> <p>海軍主計大佐 倉本 良民</p> <p>同 千栗 愛爾</p> <p>海軍主計中佐 岡本 登良夫</p>				
<p>通各</p> <p>海軍大尉 本田 陶吉</p> <p>同 石川 孝壽</p> <p>同 大川 昇</p> <p>同 角田 長松</p> <p>同 小林 與太郎</p> <p>同 細田 関治郎</p> <p>同 高橋 芳太郎</p> <p>同 小沢 新三郎</p> <p>同 佐久間 良治</p> <p>同 今野 金次郎</p> <p>同 松上 英一</p> <p>同 牧田 義一</p> <p>同 高橋 勳</p> <p>同 服部 宗一郎</p> <p>同 阿部 久太郎</p> <p>同 川本 年雄</p> <p>同 下畑 寛二</p> <p>同 道上 楠十郎</p> <p>同 岡田 清一</p> <p>同 橋本 語市</p>					<p>通各</p> <p>海軍大尉 若月 榮松</p> <p>同 海軍少佐 塚本 昇</p> <p>同 青木 駒之進</p> <p>同 早坂 庄助</p> <p>同 松下 長兵衛</p> <p>叙正六位 松本 八十三</p> <p>叙正六位 岡野 慶三郎</p> <p>叙正六位 古木 百藏</p> <p>叙正六位 成富 三平</p> <p>叙正六位 服部 賢</p> <p>叙正六位 杉浦 短郎</p> <p>叙正六位 山崎 政藏</p> <p>叙正六位 大本 季義</p> <p>叙正六位 梶原 君事</p> <p>叙正六位 上野 正實</p> <p>叙正六位 平島 唯次</p> <p>叙正六位 本吉 唯次</p> <p>叙正六位 前田 仁三郎</p> <p>叙正六位 倉本 良民</p> <p>叙正六位 千栗 愛爾</p> <p>叙正六位 岡本 登良夫</p>				

海軍大尉	藤本 正登	海軍大尉	神原 長市	海軍大尉	竹本 繁一	海軍大尉	星井 宇作	海軍大尉	荒谷 藤七	海軍大尉	山下 節藏	海軍大尉	保坂格次郎	海軍大尉	磯田 末雄	海軍大尉	磯本 一男	海軍大尉	井ノ口登七	海軍大尉	淺島 義勇	海軍大尉	平井 勝藏	海軍大尉	佐々木徳造	海軍衛生大尉	山崎 倉藏	海軍衛生大尉	山本 正雄	海軍主計大尉	淺田 健治	海軍主計大尉	高橋忠五郎	海軍主計大尉	山下 次郎	海軍主計大尉	川井 九市	海軍技術大尉	松尾 三郎	海軍教授	宮本 勇三	海軍教授	大黒 山平	海軍技師	飯田 正毅	海軍技師	岡野 和夫	海軍中尉	天野 忠	海軍中尉	江藤 寅一		
海軍教授	陶原 四郎	海軍教授	池袋 亨	海軍技師	小松 光	海軍技師	今村 正夫	海軍技師	石渡 一朗	海軍技師	川口 公彦	海軍技師	鶴飼 正男	海軍技師	山部 正幸	海軍技師	外山 眞一	海軍技師	江角 通	海軍技師	莊司 雄	海軍技師	綿引喜代壽	海軍技師	竹本 鶴雄	海軍技師	笠間 文雄	海軍技師	西川 千太郎	海軍技師	廣田 久重	海軍技師	松本 眞八	海軍技師	川口 謙雄	海軍技師	八尾 典男	海軍技師	西川 明	海軍技師	岡本 幸生	海軍技師	福原 十朗	海軍技師	乘松 惟基	海軍技師	藏重 傳	海軍技師	山里 尙英	海軍技師	近藤 永一	海軍技師	吉田 健一
海軍大尉	藤本 正登	海軍大尉	神原 長市	海軍大尉	竹本 繁一	海軍大尉	星井 宇作	海軍大尉	荒谷 藤七	海軍大尉	山下 節藏	海軍大尉	保坂格次郎	海軍大尉	磯田 末雄	海軍大尉	磯本 一男	海軍大尉	井ノ口登七	海軍大尉	淺島 義勇	海軍大尉	平井 勝藏	海軍大尉	佐々木徳造	海軍衛生大尉	山崎 倉藏	海軍衛生大尉	山本 正雄	海軍主計大尉	淺田 健治	海軍主計大尉	高橋忠五郎	海軍主計大尉	山下 次郎	海軍主計大尉	川井 九市	海軍技術大尉	松尾 三郎	海軍教授	宮本 勇三	海軍教授	大黒 山平	海軍技師	飯田 正毅	海軍技師	岡野 和夫	海軍中尉	天野 忠	海軍中尉	江藤 寅一		
海軍大尉	藤本 正登	海軍大尉	神原 長市	海軍大尉	竹本 繁一	海軍大尉	星井 宇作	海軍大尉	荒谷 藤七	海軍大尉	山下 節藏	海軍大尉	保坂格次郎	海軍大尉	磯田 末雄	海軍大尉	磯本 一男	海軍大尉	井ノ口登七	海軍大尉	淺島 義勇	海軍大尉	平井 勝藏	海軍大尉	佐々木徳造	海軍衛生大尉	山崎 倉藏	海軍衛生大尉	山本 正雄	海軍主計大尉	淺田 健治	海軍主計大尉	高橋忠五郎	海軍主計大尉	山下 次郎	海軍主計大尉	川井 九市	海軍技術大尉	松尾 三郎	海軍教授	宮本 勇三	海軍教授	大黒 山平	海軍技師	飯田 正毅	海軍技師	岡野 和夫	海軍中尉	天野 忠	海軍中尉	江藤 寅一		

○昭和二十年十一月一日	敘正三位	海軍中將 男爵 鮫島 具重	敘從七位	海軍教員 瀬尾 節
昭和二十年十一月十五日	敘正三位	海軍中將 三戸 壽		
	同	同 矢野志加三		
	同	同 山口 次平		
	同	同 有馬 馨		
	同	同 小柳 富次		
	同	同 中澤 佑		
	同	同 木村 昌福		
	同	同 中村 倍郎		
	同	同 榎本隆一郎		
	同	同 今田以武生		
	同	同 海軍主計中將 中村 貞助		
	同	同 海軍法務中將 大松澤 文平		
	同	同 島田 清		
	同	同 海軍政務次官 田中 亮一		
	同	同 海軍參與官 星野靖之助		
○昭和二十年十二月二十八日	敘正五位			
	敘從六位	第二復員理事官 舟崎 宗學		
	敘正七位	海軍司政官 和田 正也		

第二復員省公報號外 (位勳)

第二復員省公報 第四八號

昭和二十一年三月五日(火)

第二復員大臣官房

○令 達

内令第三三號

特別輸送艦北上及輸第一七四號ノ定員表ヲ各別表ノ通定ム

昭和二十一年二月十日

第二復員大臣

(別表添)

官房經第二二號

損害補償及慰籍内規中左ノ通改正ス

昭和二十一年三月四日

第二復員大臣

第二條中「五萬圓」ヲ「一萬圓」ニ改ム

第六條 補償金及慰籍料ノ支出科目ハ概ネ左ニ依ル

一 艦船ニ在リテハ艦營費

二 其ノ他ノ場合ニハ雜給及雜費

第七條、第九條及第十條中「海軍大臣」ヲ「第二復員大臣」ニ改ム

第十一條ヲ削ル

(参照) 海軍機密會計法規類集第三〇三頁

第二復員省公報 第四八號 昭和二十一年三月五日

官房經第二三號

公金類損害補償内規中左ノ通改正ス

昭和二十一年三月四日

第二復員大臣

第一條中「所屬鎮守府司令長官」ヲ「所屬地方復員局長官」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

所屬長官本内規ニ依リ難シト認メタルトキハ之ヲ第二復員大臣ニ上中スベシ

第二條第四號中但書ヲ削ル

第二條ノ二 本内規ニ依ル補償ハ一事故ニ付各公金會計毎ニ一萬圓以内トス

第五條中「特ニ定ムルモノノ外臨時軍事費、臨時軍事費、」ヲ「特ニ指定スルモノノ外」ニ改ム

第七條 本内規ニ依リ補償ヲ爲シタルトキハ補償ノ金額、年月日及理由ヲ第二復員大臣ニ報告スベシ但シ第二復員大臣ノ認許ヲ得テ實施シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(参照) 海軍機密會計法規類集第三〇五頁

○雜 款

七七

○郵便物發送先
當分ノ間本艦宛郵便物ハ左記ニ依リ送付相成度

記

神奈川縣 浦賀郵便局留置

(特別輸送艦雪風)

2093

(別表第一)

特別輸送艦北上定員表

(昭和二十二年三月五日第二復員省公報)

考 備	計	艦長 分隊長 主計長	中 少 佐	大 中 尉(主)	中 少 尉	大 中 尉(水)	大 中 尉(機)	大 中 尉(工)	中 少 尉(機)	主計兵曹長	二 (電機長)	三
	准 士 官 以 上	十三人										
考 備	下 士 官 兵	乘組 主計兵	乘組 衛生兵	乘組 兵	下 士 官	下 士 官	兵	兵	兵	兵	兵	兵
	七十六人	四	三	一	一	八	八	二九	二二	二九	二二	二二

一 分隊長ノ中一人ハ副長、一人ハ内務長、一人ハ工作部長ノ配置ニ充ツルモノトス
 二 本表中高等武官ノ定員ハ復員官ノ、判任武官ノ定員ハ復員官補ノ、兵ノ定員ハ雇員ノ定員トス
 三 本表ノ外工作部ノ業務ニ従事セシムル爲工員二十六人ヲ、會計部ノ業務ニ充ツル爲工員一人ヲ臨時乗組マシムルコトヲ得
 四 本艦乗員ニ對スル醫務關係事項ハ地方引揚援護局ニ委囑スルモノトス

(別表第二)

特別輸送艦輸第一七四號定員表

(昭和二十一年三月五日第二復員省公報)

考 備	計	艦長	少佐、大尉	乗組兵曹	一〇
		分隊長	大尉	乗組兵曹	二(金工)
一 分隊長ハ機關長兼工作部長ノ配置ニ充ツルモノトス	准士官以上	主計科尉官	兼務一	乗組衛生兵曹	一
		兵科特務士官、准士官	二	乗組主計兵曹	四
二 本表中高等武官ノ定員ハ復員官ノ、判任武官ノ定員ハ復員官補ノ定員トス	内兼務一人	兵科特務士官(機)	一		
三 本表中下士官ノ定員ニハ當該科ノ兵ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得		兵科特務士官(工)	一		
四 本表ノ外工員二十人ヲ臨時乗組マシムルコトヲ得	下士官				
五 本艦乗員ニ對スル醫務關係事項ハ地方引揚援護局ニ委囑スルモノトス					
			内兼務一人		十七人

第二復員省公報 第四九號

昭和二十一年三月六日(水)
第二復員大臣官房

○通 牒

二復經理局主第二號ノ七

昭和二十一年二月二十七日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

金融緊急措置ニ伴フ支拂事務等ノ取扱ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 第二復員省經理局長

宛 關係各廳長

第二六一五二八番電

金融緊急措置ニ伴フ支拂事務等ノ取扱ニ關スル件

金融緊急措置ニ伴フ支拂事務等ノ取扱ニ關シ左ノ通定メラル
一 俸給、給料、報酬金(専務囑託ニ限ル)、手當、賞與、航海加俸(航海増給ヲ含ム)等定期的給與ノ支拂ハ月額五百圓迄(分類所得稅、恩給國庫納金、共濟組合掛金ヲ除ク)ハ現金支拂トシ之ヲ超ユル額ハ封鎖支拂トスルコト(家族渡ノ分モ之ニ準ズ)但シ封鎖支拂ノ手續ハ餘白ニ封鎖支拂ナル旨記載シタル封鎖小切手等ヲ以テ支拂フ(所要ノ爲替料金等ハ官費支

第二復員省公報 第四九號 昭和二十一年三月六日

七九

- 辦トス)カ又ハ預入希望ノ銀行、郵便官署ニ對シ明細表ヲ添ヘ一括小切手ヲ振出シ若ハ貯金通帳ヲ取纏メ現金ヲ以テ支拂ヒ封鎖預金トスベキ旨請求スル等ノ方法ニ依ルコト
- 二 本年一月以前ニ支拂フベキモノニシテ手續遅レ居ル場合ハ第二一一五〇番電ニ拘ラズ三月二日以前ハ現金支拂トシ同日以後ハ封鎖支拂トスルコト
- 三 臨時備ノ人夫賃金(一日二十圓ヲ限度トス)ハ現金支拂トスルコト
- 四 他省ノ官吏、民間人ニ對スル手當(兼務囑託ニ對スル報酬金ヲ含ム)ハ封鎖支拂トスルコト
- 五 旅費、食料、被服料、埋葬料其ノ他實費辦償ニ屬スル給與ハ現金支拂トスルコト
- 六 通信費其ノ他事務用雜費(車馬賃、翻譯料、諸謝金及一件ノ金額五百圓未滿ノ消耗品、備品、圖書文具費等)ハ現金支拂トスルコト
- 七 艦船補給用生糧品代ハ緊急ヲ要スル寬貸ノ爲必要巴ムヲ得ザルモノニ限り實情ニ應ジ現金支拂トスルコトヲ得
- 八 資金前渡官吏及國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體ニ對シテハ現金支拂トスルコトヲ得
- 九 現金支拂ハ三月二日迄ハ總テ舊券ニ依ルコト但シ三月三日

以後ニ互ル出張ノ旅費等特ニ新券ヲ要スルモノハ其ノ部分ニ對シ新券ニ依リ支拂フコトヲ得此ノ場合小切手ヲ振出スニ當リテハ支出官又ハ資金前渡官吏ハ三月三日以後ノ旅費ニ相當スル部分ニ付證明書ヲ發給シ日本銀行ニ呈示スルコト

一〇 出納官吏保管ノ舊券ト引換ニ關シテハ原則トシテ舊券ヲ三月三日以後預託金ニ拂込ムモノトスルモ新券ト引換ヲ要スル場合ハ現金出納簿ヲ銀行ニ持參シ引換濟證印ノ上引換ヲ受クルコト

一、 酒保資金、未交付金等公金タル舊券ニ付テハ原則ハ前號ニ準ズルモ特殊ノ事情ニ依リ新券ト引換ヲ要スル場合ハ現金出納簿ニ所轄長ノ證明書ヲ添ヘ銀行ニ呈示シ引換ヲ受クルノ外引換期日、引換金額、引換場所等ノ明細表ヲ添ヘ經理局長及所管經理部長ニ報告スルコト
二、 前號ノ公金ノ封鎖預金等ニ付テハ臨時財産調査令ニ依リ申告ヲ爲スコト

三、 米穀通帳ヲ有セザル艦船乘員等ノ個人保有資金ノ新舊券引換並ニ封鎖預金等ノ現金拂出ニ要スル米穀通帳ニ代ルベキ證明書ハ所轄長之ヲ調製スルコト

四、 艦船航海等ノ爲規定ノ期日迄ニ新舊券ノ引換、臨時財産調査令ニ依リ申告等ヲ爲シ得ザルモノニ對シテハ所轄長證明書ヲ調製發給ノ上最初ノ歸着港ニ於テ所要ノ手續ヲ執ラシムルコト

二復員省經理局長第二號ノ二
昭和二十一年三月五日

第二復員省經理局長

支 出
各資金前渡官吏 殿
各契約擔任官吏

金錢債務ノ支拂ニ關スル件通牒

聯合國最高司令部ノ指令ニ關聯シ目下支拂停止中ノ金額一萬圓ヲ超ユル軍需品代金及軍需工場ノ損失補償關係金錢債務ニ付テハ日本銀行封鎖預金トシテ之ヲ決済スルコトニ關係省ニ於テ手續規定準備中ニ有之候處右ニ該當セザル復員輸送艦船ノ修理補給關係等ノ金錢債務ニシテ急速ニ現金支拂ヲ要スル特殊事情アルモノニ付テハ別ノ指令ニ基ク臨時軍費支拂停止並ニ豫算上ノ制限等ニ抵觸セザル限リ當分ノ間昭和二十年十月經豫第三號ノ一八通牒ニ拘ラズ政府特殊借入金ニ依ラズ歳出金ヲ支出ニ依リ之ヲ決済(現金支拂)ヲ爲シ差支無之候

○ 雜 談

○ 郵便物發送先

自今本艦宛郵便物ハ左記ニ送付相成度

記
廣島縣 兵部便局留置

(特別輸送艦春月)

第二復員省公報 第五〇號

昭和二十一年三月七日(木)

第二復員大臣官房

○令 達

内令第三四號

當分ノ間特別輸送艦冬月ノ定員ハ別表ニ依ル

昭和二十一年二月二十五日

第二復員大臣

(別表添)

内令第三五號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正

セラル

昭和二十一年二月二十八日

第二復員大臣

横須賀鎮守府所管ノ部中第一海軍補充部ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁参照)

内令第三六號

元佐世保鎮守府在籍

軍艦若鷹

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和二十一年三月一日

第二復員大臣

第二復員省公報 第五〇號 昭和二十一年三月七日

内令第三七號

右特別輸送艦トシ横須賀地方復員局所管ト定ム

元第五五號海防艦

元軍艦若鷹

右特別輸送艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム

昭和二十一年三月一日

第二復員大臣

内令第三八號

昭和二十年内令第七號中左ノ通改正ス

昭和二十一年三月一日

第二復員大臣

表中佐世保地方復員局掃海部佐世保支部ノ項掃海艦名ノ欄「同

第二百四十八號」ヲ削ル

(昭和二十年十二月十八日第二復員省公報第一〇號参照)

内令第三九號

佐世保地方復員局所管

掃海艦 驅潜特第二百四十八號

右掃海艦ヲ解ク

昭和二十一年三月一日

第二復員大臣

○通牒

官房需第八號

昭和二十一年三月六日

第二復員大臣官房庶務課長

關係各廳長殿

糧食増給ニ關スル件申進

當分ノ開艦船乗組員ニハ昭和二十一年十二月一日官房需第二號ノ規定ニ依ルノ外左ノ區分ニ依リ糧食ヲ増給シ得ルコトニ定メラレ候

品種	日額	記事
乳酸飲料	〇〇六立	北緯二十四度以南又ハ
果實シロップ	〇〇六	一月至三月北緯四十二
落花生ミルク	三五瓦	度ニ在ル艦船ノ乗組員
罐詰牛乳	三〇	トキニ限ル
粉末牛乳	六	

(參照) 昭和二十年官房需第二號 昭和二〇、二二、二四
第二復員省公報

○雜款

○移轉

當連絡所事務所ハ二月二十日下關市新町三丁目(舊第七十四部隊跡)ニ移轉セリ

(下關上陸地連絡所)

當部ハ二月二十四日佐賀縣唐津市役所佐志支所内ニ移轉セリ

追テ郵便物ハ左記ニ送付相成度

記

佐賀縣唐津市 佐志郵便局氣付

博多掃海支部

(博多掃海支部)

○事務開始

本艦艇裝員事務所ヲ一月四日大阪市住吉區柴谷町四四番地(藤永田造船所内)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(特別輸送艦第五十八號海防艦艇裝員事務所)

(別表)

特別輸送艦冬月定員表

(昭和二十一年三月七日第二復員省公報)

考 備	計	艦 長	分 隊 長	醫 務 長	主 計 長	乘 組
	准 士 官 以 上	中 少 佐 官	大 中 尉 官	軍 醫 科 尉 官	主 計 科 尉 官	兵科特務士官、准士官 兵科特務士官(機) 兵科特務士官(工)
一 分隊長兵科佐官ハ機關長兼工作部長ノ配置ニ充ツルモノトス	内兼務二人			兼務一	兼務一	
二 高等武官ノ定員ハ復員官ノ、判任武官ノ定員ハ復員官補ノ定員トス	下 士 官	兵 曹	機 關 兵 曹	工 作 兵 曹	衛 生 兵 曹	主 計 兵 曹
三 下士官ノ定員ニハ當該科ノ兵ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得	四十人	一〇	二三(補給、機工、木工)	一	六(經理、衣糧)	
四 本表ノ外必要ニ應ジ工員二十人ヲ臨時乗組マシムルコトヲ得						

第一復員省公報 第五二號

昭和二十一年三月八日
第二復員大臣官房

○令 達

官房人第三三號
左記艦艇ノ乗員ハ特ニ發令ノモノヲ除キ別ニ辭令ヲ用ヒズシテ
各下欄ノ日附ヲ以テ全員豫備役ニ編入（召集中ノ者ハ其ノ儘）
即日召集セラレ第二復員部内職員トシテ従前ノ職務ニ相當スル
特別輸送艦ノ職員ニ補命セラレタルモノトス

昭和二十一年三月一日

第二復員大臣

記

元 驅逐艦	神 風	昭和二十年十二月一日
元 特務艦	早 埼	
同	荒 埼	昭和二十一年二月二十日
元 水雷艇	雉 鷗	
元 敷設艦	若 鷗	昭和二十一年三月一日

○通 牒

二復經理局第一四號
昭和二十一年二月二十二日

第二復員省公報 第五二號 昭和二十一年三月八日

關係各廳長 殿
特別輸送艦艦長

日用品等配給ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和二十年二復經理局第一號通牒首題ノ件申左ノ通改正セルニ付可然了知相成度

一 第一號(口)項表中ノ「4」ヲ

4 引揚援護局滞留中ノ軍官民(特別輸送艦艇以外)ノ船艇引揚者ヲ含ム

引揚援護局内及歸郷地迄ノ旅行中必要ナル日用品

ニ改ム

二 第一號(口)項表「4」ノ次ニ

5 元海軍病院タリシ國立病院收容中ノ患者ヲ追加シ従前ノ「5」「6」ヲ「6」「7」ニ改ム

(昭和二十年三月三日第二復員省公報第一三號參照)

二復經理局契九第一號ノ六五
昭和二十一年二月二十二日

第二復員省經理局長

2101

關係各廳長 殿
特別輸送艦艇長 殿

日用品等配給品種標準中改正ニ關スル件通知
昭和二十年二復員局契九第二號ノ五〇通知首題ノ件別表中左ノ通改正セルニ付可然取計相成度

記

- 一 「上陸地連絡所滞留中ノ軍官民」ヲ「引揚援護局滞留中ノ軍官民」ニ改ム
- 二 「管制廳ノ特ニ定ムルモノ」ヲ「元海軍病院タリシ國立病院收容中ノ患者及ビ管制廳ノ特ニ定ムルモノ」ニ改ム

(昭和二十年二月三日第二復員省公報第二七號參照)

二復員局主第二號ノ一〇

昭和二十一年三月四日

第二復員省經理局長

關係各廳長 殿

特別輸送艦船等ノ經費掌理ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 第二復員大臣

宛 關係各廳長

第二七一六二一番電

特別輸送艦船等ノ經費掌理ニ關スル件

當分ノ間主計科准士官以上(同武官)ヨリ任用セラレタル文官ヲ

含ム)ノ配員ナキ特別輸送艦船、掃海艦艇ニシテ經費掌理者ヲ指定セラレザル爲支障アル場合ニ於テハ官房經管三號ノ規定ニ拘ラズ所管地方復員局經理部長ヲ經テ第二復員省經理局長ニ協議ノ上當該各部ニ勤務ノ判任官以上ノ者ヲシテ之ヲ給與其ノ他ノ經費支拂ヲ掌理セシムルコトヲ得當該出納官吏ノ變更、廢止等ヲ要スル場合ハ之ヲ任免ニ關シ所管地方復員局經理部長ヲ經テ第二復員省經理局長ニ協議スベシ

二復員省第六〇號

昭和二十一年三月六日

第二復員大臣官房需品部長

關係各廳長 殿

特別輸送艦船及掃海艦艇艦需品受拂調書ニ關スル件照會

關スル件照會

首題ノ件需品調達計畫樹立上必要ニ付昭和二十一年二月一日現在ヲ以テ別紙様式ニ依リ調書作製ノ上至急送付相成度

追テ客年十月五日附軍需機需第四五一號通報ハ自然消滅ノコト了知相成度

(別紙様式添)

(別紙様式)

(昭和二十一年三月八日第二復員省公報)

特別輸送艦船 (掃海艦艇) 艦營需品受拂調書		(二月一日現在)	
品名	數稱	還送(掃海) 就役後受込 數量	消費量
		在庫數量	現在庫量
		需品部名	記
			事

備考

- 一 本調書ニハ供給標準以外ノモノト雖モ現ニ保有セル艦營需品全部ヲ記入ノコト
- 二 記事欄ニハ該需品ノ任務行動上必要ノ有無ヲ記入ノコト
- 三 欄外ニ就役後ノ行動概要記註ノコト

第二復員省公報 第五二號

昭和二十一年三月十二日(火)
第二復員大臣官房

○通牒

官房總第二七號

昭和二十一年三月二日

第二復員大臣官房庶務課長

各廳長殿

官廳執務時間ニ關スル件通牒

有題ノ件ニ關シ別紙ノ通發電セラレ候條了知相成度

第二復員省

宛 部内一般

第〇二一八〇八番電

官廳執務時間ニ關スル件

昭和十八年閣令第二四號大東亞戰爭中ノ官廳執務時間ニ關スル件ヲ廢止シ大正十一年閣令第六號ニ定ムル執務時間ニ依ルコトニ決定來三月五日ヨリ實施セラル

各廳ハ現下ノ異常ナル時局ニ鑑ミ克ク執務時間ヲ勵行シ特ニ土曜日ノ午後、休日、平日ノ午後四時以後ト雖モ緊急ナル事務ノ處理ニ支障ナキ様事務處理能力ヲ有スル責任者ヲ出勤又ハ居殘セシムル等執務態勢ヲ一層強化シ事務處理ニ遺憾ナキヲ期スルコト

第二復員省公報 第五二號 昭和二十一年三月十二日

(参照)

昭和十八年閣令第二十四號(大東亞戰爭中ノ官廳執務時間ニ關スル件) 昭和十八年十月一日閣令第二十四號

大東亞戰爭中ノ官廳執務時間ニ關スル件左ノ通牒

大東亞戰爭中ノ官廳執務時間ハ大正十一年閣令第六號第一項ノ規定ニ拘ラス休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後五時迄

十一月一日ヨリ三月三十一日迄

午前九時ヨリ午後五時迄

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年閣令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

○官廳執務時間(大正十一年閣令第六號抄)

第一項

官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ七月二十日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

八五

午前八時ヨリ午後十二時迄
九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午後十二時迄トス
十一月一日ヨリ三月三十一日迄
午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午後十二時迄トス

○雜款

舞復運第一〇號ノ三四

昭和二十一年二月二十六日

舞鶴地方復員局艦船運航部長

關係特別輸送艦長殿

郵便物發送先通知ニ關スル件照會

首題ノ件第二復員省及關係郵便局等ニハ夫々通知有之モノト被
存候處公報發布受領迄ニハ相當ノ日時ヲ要シ爲ニ往々ニシテ郵
送先不明ノ理由ヲ以テ不達返送サルル實狀ニ有之候條自今郵便
物發送先變更ノ都度第二復員省官房及關係郵便局ヘ通知スルト
共ニ速ニ當部ヘ通知方勵行相成度

○郵便物發送先

本艦宛郵便物ハ左記ヘ廻送相成度

記

鹿兒島市六日町(鹿兒島無盡會社三階)

鹿兒島上陸地連絡所氣付

特別輸送艦 夏 月

(特別輸送艦夏月)

○事務開始

當隊殘務整理ハ二月二十六日長崎縣佐世保市大搭町(舊佐世保
海軍施設部内)ニ於テ事務ヲ開始セリ
(佐世保地方復員局管業部)

○正誤

第四四號七〇頁轉官ノ項中原田美實ノ轉官月日「二月三十一日」
ハ「二月二十二日」ノ誤

第二復員省公報號外(位勳)

○敘勳

○昭和二十一年一月三十日發令

敘勳三等授瑞寶章
同 第二復員官 上田 俊次
同 金澤 信二
同 峰川 實

敘勳四等授瑞寶章
第二復員官 清水 治夫

敘勳七等授瑞寶章
第二復員理事官 荒木 義廣

敘勳六等授瑞寶章
海軍主計少佐 坂川 喬樹

敘勳三等授瑞寶章
海軍中佐 鈴木 仲助

海軍技師 大谷 豊吉
同 橋川 愛壽
同 山崎 宗一
同 塚本清之助
同 十河 浩

海軍理事官 遠藤長次郎

海軍理事官 北村 白一

敘勳五等授瑞寶章

○昭和二十年三月二十二日發令

敘勳六等授瑞寶章
同 海軍理事官 松本 清
同 海軍技師 渡邊 重吉
同 石井 鐵治

敘勳七等授瑞寶章
同 海軍理事官 奥津光太郎
同 石田 喜平
同 山本 芳夫
同 影井 重雄
同 青木捷二郎
同 新保錦之進

敘勳一等授瑞寶章
海軍中將 柴田彌一郎
同 左近允尙正

海軍少將 中澤 佑
同 岩淵 三次
同 仁科 宏造
同 古川 保
同 藤永 紫朗
同 松原 博
同 竹田 六吉

敘勳二等授瑞寶章

海軍大佐 重廣 宗雄
同 林 眞澄
同 田中 八郎
同 小中 茂雄
同 北村 肇
同 藤岡 勇雄
同 渡邊 太吉
同 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 渡邊 太吉
同 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 江村 日雄

海軍中佐 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 江村 日雄

海軍中佐 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 江村 日雄

海軍中佐 寺坂 重夫
同 江村 日雄

海軍中佐 江村 日雄

昭和二十一年三月十二日(火)

第二復員大臣官房

第二復員省公報號外 (位勳)

第二復員省公報 第五三號

○ 通 牒

二復經理局主第七號ノ一九
昭和二十一年三月十三日

關係各廳長殿

第二復員省經理局長

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 經理局長
宛 部内一般

第〇一三四五番電

退職賞與金ト共ニ退職賞與金以外ノモノヲ定期預金トシタル場合ノ證明ノ件

軍人文官同待遇者(部内限待遇者ヲ含ム)ノ退職賞與金ノ定期預金證書ヲ預入銀行ニ提出スルニ際シ退職賞與金ト共ニ退職賞與金以外ノモノヲ定期預金トシタル場合ハ退職賞與金以外ノ金額ニ限リ證明書ニ依リ支拂ヲ受ケ得ルモノナル處其ノ證明書ハ左ニ依リ發行スルモノトス

一 證明廳

定期預金證書所持人ノ最寄ノ地方復員局經理部(會計課、地

第二復員省公報 第五三號 昭和二十一年三月十五日

昭和二十一年三月十五日

第二復員大臣官房

方復員人事部、地方復員局人事部支部又ハ第二復員省經理局(會計課)

二 證明すべき退職賞與額

昭和二十年機密第二二二三三〇番電及同第三〇一八三二番電(九月六日及九月十五日公報)ニ依ル額

三 證明事項

退職賞與ノ支給ヲ受ケタル所轄名

解員時ノ官職等級氏名

現住所

退職賞與額

退職賞與金ナルコトヲ證明スル文言

證明年月日

證明廳長印(職印)

尙本件ハ公示方考慮中ナルモ各地方復員人事部等ニ於テモ一般ニ周知方取計ハレ度

發 經理局長
宛 關係各廳長

第二二一六〇六番電

職死認定後生存シタルコト判明セル者ノ給與取扱ノ件

戰死認定後生存シタルコト判明シタル者ノ給與取扱ニ關シテハ昭和二十年官房人第一八號第四號ニ依ルノ外左ニ依リ處理セラレ度

一 俸給等

(イ) 死亡公表セラレタル者ノ内終戰前俘虜タリシコト明ニシテ現ニ生存スルモノニ付テハ解員又ハ整理ノ日ノ屬スル月ノ前月迄俸給等ノ諸給與ハ支給セズ但シ從來支給済ノ諸給與ハ其ノ儘トス

(ロ) 前號以外ノ者ニシテ現ニ生存スルモノニ付テハ引續キ死亡認定時所屬スル屬ニ勤務シタルモノトシテ死亡認定時ノ官等級俸(死亡認定時進級シタルモノニ在リテハ其ノ直前ノ官等級俸ヲ謂フ)ニ依リ諸給與ヲ支給ス

二 解員又ハ整理ニ伴フ給與
一般解員又ハ整理者ニ同ジ

發 第二復員大臣

宛 第十方面艦隊司令長官

第〇三一四三二番電

外地ノ局地輸送ニ從事スル艦船乗員ニ慰勞金支給ノ件

特別輸送艦船ニ非ザル艦船艇ノ乗員ニシテ外地ニ在リテ局地輸送ニ從事スル軍人軍屬ニハ左ニ依リ本年一月一日以降局地輸送慰勞金ヲ支給スルコトヲ得

一 局地輸送慰勞金ハ月額トシ左ニ依リ之ヲ支給ス
准士官以上及高等文官同待遇者 百圓以内
下士官兵及其ノ他 六十五圓以内

二 前號ノ慰勞金ハ局地輸送艦船艇ノ固有乗員ニシテ一ヶ月ニ付二十日以上輸送任務ニ從事シタルモノニ之ヲ支給ス

三 慰勞金ハ月ノ途中ニ於テ身分ヲ變更シタルトキハ多額ニ依ル

特別賞與ノ支給ヲ受クル者死亡シタルトキハ其ノ月ノ全額ヲ支給ス

四 所屬長官ハ業務ノ狀況ニ依リ適宜減額スルコトヲ得

五 廳長前各號ニ依リ定メラレタル慰勞金ノ支給額ヲ士官ニ在リテハ第二復員省經理局長、特務士官以下ノ軍人ニ在リテハ在籍ノ地方復員局經理部長、其ノ他ニ在リテハ其ノ所屬屬ノ屬スル地方復員局經理部長ニ通報スルモノトス

前號ノ通報ニハ所轄名、官職等級、氏名(電報符又ハ入籍番號)支給金額、支給ヲ爲スベキ乘艦期間内地ニ於ケル當該金額受取人ノ住所氏名ヲ記載スルモノトス

六 第二復員省經理局長及地方復員局經理部長ハ前號ノ通報ニ依リ慰勞金ヲ支給スルモノトス

七 支辨科目ハ臨軍、臨軍、艦營費、雜費トス

發 經理局長

宛 各地方復員局經理部長、各土陸地連絡所長

第一九一五五番電

外地ヨリ歸還者ノ出張旅費ニ關スル件

外地ヨリ歸還ノ軍人軍屬ニシテ第二復員省ニ報告ノ爲出頭スルモノニ對スル上陸地、東京間ノ出張旅費ハ經理局(會計課)ニテ支給ノコトニ一定ス

○雜款

○郵便物發送先
本艦宛郵便物ハ左記ニ依リ送付相成度

記

鹿兒島市 鹿兒島上陸地連絡所氣付

特別輸送艦 海第五十二號

(特別輸送艦海第五十二號)

○移轉

第二十二海軍航空廠殘務整理班ハ二月二十八日佐世保地方復員局ニ移轉セリ

(第二十二海軍航空廠殘務整理班)

○事務所及出張所(分室)所在ニ關スル件
當需品部所在並ニ取扱事項左記ノ通

記

名稱區分	位置	取扱事項	電話番號
本部	横須賀市久里濱町 横須賀地方復員局内 (舊海軍通信學校内)	部内電話(久里濱交換) 部長課 一〇二五 總務課 〇〇〇四 需品課 〇〇〇一 衣類課 〇〇〇七	
浦賀分室	横須賀市浦賀町宮ノ下五十一番地	浦賀在泊艦船ニ對スル被服糧食ノ補給	部内電話 一六〇、二〇七
東京出張所	東京都芝區高濱町八番地 友野鐵工所内 (省線品川驛東口ヨリ徒歩約三分)	東京方面糧食補給並ニ一般連絡	市内電話 三田(45)一九二乃至一九六
横濱出張所	横濱市神奈川區山内町 中央市場内 (市電中央市場前下東徒歩約五分)	横濱方面在泊艦船ニ對スル糧食ノ補給並ニ連絡	市内電話 呼出神奈川局 一二八二

第二復員省公報 第五三號

昭和二十一年三月十五日

八九

安浦分室	横須賀市安浦町二丁目三番地 (安浦船溜北側) (横須賀急行電鐵公郷驛下) (車徒歩約三分)
浦賀圖誌部	横須賀市浦賀町 横須賀地方復員局通航部内
治療品供給所	横須賀市久里濱 (浦賀引揚救護局收容部内) (舊海軍工作學校)
燃料ニ關スル事項	市内電話 横須賀 八九三
水路圖誌ニ關スル事項	市内電話 呼出 二一六三
治療品ノ補給ニ關スル事項	市内電話 部内電話 二一四四

(横須賀地方復員局需品部)

2111